



3つ 村上 栄二が見据える未来

村上 栄二



りじょう幼稚園、福山市立新開小学校、福山市立鉢之中学校、私立近畿大学附属高等学校福山校、近畿大学法学部経営法学科を卒業。大学卒業後、有限会社DC開発研究所にて代表取締役のほか、大阪市会議員(1期)を務める。2015年6月からは「地元」に恩返しをしたい」想いで福山に戻る。広島県会議員。

- 1: AI・IoT・5Gを見据えた役所機能の新しい在り方(8月)
- 2: 広島県が行う災害対応を知っていますか?(9月)
- 3: 道路計画で見るパラダイムシフトの必要性(10月)

過疎地・田舎は自己責任ではなく共助の時代へ

広島県は瀬戸内式気候で雨が降らないインフラ整備でも充分だった。しかし、平成30年7月豪雨は5日から7日までの間に広い範囲で400ミリ以上の雨が降る(7月の月降水量平均値の2倍程度となる大雨)多くの観測地点で観測史上1位を記録した。

インフラ、復旧事業は【人口・交通量・人的被害・経済的損失によって優先順位】が付けられてしまう現実がある。
当然、都市部に国は重点的に予算が投じられる。

インフラ整備は5か年計画になっており、その間に災害が起きた時にソフト面での整備とインフラも自分たちでやるとい【自助・公助・共助】の究極の形

田舎(過疎地)に住むリスクを考える。



・お金を払えば必要なサービスを受けられるわけではない。



・近隣の住宅は老朽化した空き家によって台風や土砂崩れで被害を受ける。



・国民健康保険が高く、公共インフラは切り下げられる可能性が高い。

尾道市【うちの避難所】



運営(地域住民)



毛布支給(行政)

地域の皆さんで開設・運営を決定し、備蓄品で毛布を支給。
行政主体ではなく地域主体の街作り、防災意識を創る。

下条村【建設資材支給事業】



生活道路舗装など軽易な土木作業を住民の自らの手で実施し、住民の細かい要望に「事業の先送り」する事なく実施。

賃貸マンション、月極駐車場
「空き」あります!

Consort homes



有限会社 DC 開発研究所
☎ 084-927-1185

〒720-0052 広島県福山市東町2-3-2